

献辞

赤堀勝彦先生は、二〇一二年三月末日をもって神戸学院大学を定年でご退職なさいました。

赤堀先生は、早稲田大学ご卒業後、四〇年近くにわたる損害保険業界における実務経験（海外勤務を含む）を経て、二〇〇二年四月に長崎県立大学教授に就任され、大学教育の世界に身を転じられました。前任校における定年退職と同時に、二〇〇七年四月にキャリア教育担当の教授として本学法学部に着任されました。

五年間という短い在籍期間ではありましたが、赤堀先生は、長年の企業での実務経験や前任校での学生部長としてのご経験を生かして、さまざまな形で本学および法学部の発展に貢献されました。

全学的には、就職委員としてキャリアセンターと学部をつなぎ役をしていただくとともに、補助金事業である共通教育の「就業力育成プログラム」の策定にはワーキンググループの一員としてご尽力いただきました。また、全学的なFDセミナーでは講師を務めていただき、学生の立場に立った授業展開の技法について熱く語っていただきました。

法学部においては、赤堀先生には、教育面や就職支援で大きな貢献をしていただきました。キャリアアトリーニング分野全般のコーディネータを担当していただき、自らもFP関連科目やマナー講座などを担当されました。

また、法学部独自の卒業生リレー講座、あるいは、二〇〇九年から始まった「法学部就職セミナー」では、企画・運営面で多大なご尽力をいただきました。これらは今や法学部を特徴付けるプログラムとなっています。

赤堀先生は、ゼミ教育において学生とのコミュニケーションを大切にされ、学生諸君が自信を持って就職戦線に乗り込み、社会人として自立していけるように、多様な実践的教育手法を駆使されていたのが印象に残ります。赤堀ゼミの学生諸君は、皆すっかりとしていて就職面でも着実に成果を出しているという印象です。本学のような立ち位置にある大学・学部にあつては、専門教育だけでなく、社会人として通用する人材の育成（人間教育）にも取り組む必要があるということを教えてくださいたいように思います。

学外でもFP技能検定委員や日本リスクマネジメント学会理事として活躍してこられました。また、研究面では、たびたび『神戸学院法学』にご論稿を寄せられるとともに、二〇一〇年に神戸学院大学法学研究叢書として刊行されたご著書『企業の法的リスクマネジメント』（法律文化社）が日本リスクマネジメント学会賞に輝き、その後本書をもって博士（法学）を取得されています。

以上のように実に多様な形で、本学、特に法学部の教育・研究・キャリア支援等に新たな風を吹き込んでくださいました。赤堀先生の本学および法学部における多大なご貢献に敬意を表しますとともに、先生の今後益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、謹んで本号を献呈させていただきます。

二〇一三年三月

法学部長 佐藤雅美